（16）ブロッコリー
ア　殺菌剤

農薬名	成分名	FRACコード	適用病害虫名										注意事項
			黒腐病	黒斑細菌病	軟腐病	べと病	苗立枯病R	根こぶ病	花蕾腐敗病	菌核病			
アフェットフロアブル	ﾍﾞﾝﾁｵﾋﾟﾗﾄﾞ	7								は			は：【はなやさい類登録】
アミスター２０フロアブル	ｱｿﾞｷｼｽﾄﾛﾋﾞﾝ	11				◎				◎			
エトフィンフロアブル	ｴﾀﾎﾞｷｻﾑ	22				◎							
オラクル顆粒水和剤	ｱﾐｽﾙﾌﾞﾛﾑ	21						◎					
オリゼメート粒剤	ﾌﾟﾛﾍﾞﾅｿﾞｰﾙ	P02	◎	◎									
オリゼメート顆粒水和剤	ﾌﾟﾛﾍﾞﾅｿﾞｰﾙ	P02	◎										セルトレイ潅注
オロンディスウルトラＳＣ	ｵｷｻﾁｱﾋﾟﾌﾟﾛﾘﾝ･ﾏﾝｼﾞﾌﾟﾛﾊﾟﾐﾄﾞ	49･40				◎							
カスミンボルドー カッパーシン水和剤	ｶｽｶﾞﾏｲｼﾝ･塩基性塩化銅	24･M01	◎										生育抑制や葉縁の黄白化等の薬害を生じるおそれがあるので、所定の希釈倍数を厳守すること。
カセット水和剤	ｵｷｿﾘﾆｯｸ酸･ｶｽｶﾞﾏｲｼﾝ	31･24	◎										
カンタスドライフロアブル	ﾎﾞｽｶﾘﾄﾞ	7								◎			
キノンドー水和剤４０	有機銅	M01	◎	◎									
クプロシールド	塩基性硫酸銅	M01		は	野	野			は				花蕾に薬害を生じるおそれがあるので，花蕾形成期までに使用する 野:【野菜類登録】， は：【はなやさい類登録】
コサイド３０００	水酸化第二銅	M01	野		野				◎				野:【野菜類登録】 炭酸カルシウム水和剤を加用する。
シグナムＷＤＧ	ﾋﾟﾗｸﾛｽﾄﾛﾋﾞﾝ･ﾎﾞｽｶﾘﾄﾞ	11･7				は				は			は：【はなやさい類登録】
スターナ水和剤	ｵｷｿﾘﾆｯｸ酸	31		◎	◎				◎				
ダコニール１０００	TPN	M05				◎		◎					
ドイツボルドーＡ	塩基性塩化銅	M01			野	野							野:【野菜類登録】薬害を生じるおそれがあるので，高濃度（500倍）液の散布はさけること。
トップジンＭ水和剤	ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙ	1								◎			
ナレート水和剤	ｵｷｿﾘﾆｯｸ酸･有機銅	31･M01			◎								
ネビライト粉剤	ﾌﾙｽﾙﾌｧﾐﾄﾞ	36						◎					
ネビリュウ	ﾌﾙｽﾙﾌｧﾐﾄﾞ	36						◎					
バリダシン液剤５	ﾊﾞﾘﾀﾞﾏｲｼﾝ	U18	◎										
パレード２０フロアブル	ﾋﾟﾗｼﾞﾌﾙﾐﾄﾞ	7								は			は：【はなやさい類登録】
ピシロックフロアブル	ﾋﾟｶﾙﾌﾞﾄﾗｿﾞｸｽ	U17				◎							

農薬名	成分名	FRACコード	適用病害虫名										注意事項
			黒腐病	黒斑細菌病	軟腐病	べと病	苗立枯病R	根こぶ病	花蕾腐敗病	菌核病			
フォリオゴールド	ﾒﾀﾗｷｼﾙM・TPN	4・M05				◎							
フロンサイドSC	ﾌﾙｱｼﾞﾅﾑ	29						◎					
フジドーLフロアブル	塩基性硫酸銅	M01		◎									
ベジセイバー	ﾍﾟﾝﾁｵﾋﾟﾗﾄﾞ・TPN	7・M05				◎				◎			
ベンレート水和剤	ﾍﾞﾉﾐﾙ	1								◎			
ホライズンドライフロアブル	ｼﾓｷｻﾆﾙ・ﾌｧﾓｷｻﾄﾞﾝ	27・11				◎							
マイコシールド	ｵｷｼﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ	41							◎				
マスタピース水和剤	ｼｭｰﾄﾞﾓﾅｽ ﾛﾃﾞｼｱ	NC		◎	◎				◎				
メジャーフロアブル	ﾋﾟｺｷｼｽﾄﾛﾋﾞﾝ	11				◎				◎			
ヨネポン水和剤	ﾉﾆﾙﾌｪﾉｰﾙｽﾙﾎﾝ酸銅	M01	◎			◎							
ライメイフロアブル	ｱﾐｽﾙﾌﾞﾛﾑ	21				◎							
リゾレックス水和剤	ﾄﾙｸﾛﾎｽﾒﾁﾙ	14					◎						
レーバスフロアブル	ﾏﾝｼﾞﾌﾟﾛﾊﾟﾐﾄﾞ	40				◎							
Zボルドー	塩基性硫酸銅	M01	野	野	野	野			◎				野：【野菜類登録】，黒腐病はﾌﾞﾛｯｺﾘｰで無人航空機利用登録もある。外葉に軽微な薬害を生じる場合があるため注意する。

注1）苗立枯病の対象病原菌の表記　R：*Rhizoctonia*

（16）ブロッコリー
イ　殺虫剤

農薬名	成分名	IRACコード	適用病害虫名											注意事項
			アブラムシ類	アオムシ	オオタバコガ	コナガ	ウワバ類	ハスモンヨトウ	ヨトウムシ	ハイマダラノメイガ	ネキリムシ類	ネギアザミウマ	アザミウマ類	
アクセルフロアブル	ﾒﾀﾌﾙﾐｿﾞﾝ	22B				◎		◎	◎					
						無		無	無					無：無人航空機による散布で登録
アクセルベイト	ﾒﾀﾌﾙﾐｿﾞﾝ	22B									◎			
アクタラ粒剤５	ﾁｱﾒﾄｷｻﾑ	4A		◎		◎				◎				
アクタラ顆粒水溶剤	ﾁｱﾒﾄｷｻﾑ	4A	◎											
アタブロン乳剤	ｸﾛﾙﾌﾙｱｽﾞﾛﾝ	15		◎		◎	ﾀﾏ							ﾀﾏ：【タマナギンウワバに登録】
アディオン乳剤	ﾍﾟﾙﾒﾄﾘﾝ	3A	◎			◎								
アドマイヤーフロアブル	ｲﾐﾀﾞｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞ	4A	◎											
アドマイヤー１粒剤	ｲﾐﾀﾞｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞ	4A	◎											
アニキ乳剤	ﾚﾋﾟﾒｸﾁﾝ	6		◎		◎		◎						
アファーム乳剤	ｴﾏﾒｸﾁﾝ安息香酸塩	6		◎	◎	◎		◎	◎					
アベイル粒剤	ｱｾﾀﾐﾌﾟﾘﾄﾞ・ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	4A･28	◎	◎		◎		◎				◎		
アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ	4A	◎			◎								
アルバリン粒剤 スタークル粒剤	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ	4A	◎			◎								
ウララＤＦ	ﾌﾛﾆｶﾐﾄﾞ	29	◎											
エスマルクＤＦ	BT	11A		野	野	野			野					野：【野菜類登録】
エルサン乳剤	PAP	1B	◎	◎		◎		◎	◎	◎			◎	
オルトラン粒剤	ｱｾﾌｪｰﾄ	1B		◎					◎		◎		◎	
カウンター乳剤	ﾉﾊﾞﾙﾛﾝ	15								◎				
ガードベイトＡ	ﾍﾟﾙﾒﾄﾘﾝ	3A									◎			
カスケード乳剤	ﾌﾙﾌｪﾉｸｽﾛﾝ	15	◎	◎		◎		◎	◎					
キックオフ顆粒水和剤	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ・ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ	28･4A	◎	◎		◎		◎						

農薬名	成分名	IRACコード	適用病害虫名											注意事項
			アブラムシ類	アオムシ	オオタバコガ	コナガ	ウワバ類	ハスモンヨトウ	ヨトウムシ	ハイマダラノメイガ	ネキリムシ類	ネギアザミウマ	アザミウマ類	
グレーシア乳剤	ﾌﾙｷｻﾒﾀﾐﾄﾞ	30		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎		
コテツフロアブル	ｸﾛﾙﾌｪﾅﾋﾟﾙ	13		◎		◎		◎	◎					
コナガコン	ﾀﾞｲｱﾓﾙｱ				◎	◎								【作物指定無しで登録】
コルト顆粒水和剤	ﾋﾟﾘﾌﾙｷﾅｿﾞﾝ	9B	◎											
コンフューザーV	ｱﾙﾐｹﾞﾙｱ・ｳﾜﾊﾞﾙｱ・ﾀﾞｲｱﾓﾙｱ・ﾋﾞｰﾄｱｰﾐﾙｱ・ﾘﾄﾙｱ				野	野	野	野	野					野：【野菜類登録，ｳﾜﾊﾞ類はﾀﾏﾅｷﾞﾝｳﾜﾊﾞ・ｲﾗｸｻｷﾞﾝｳﾜﾊﾞで適用，ﾖﾄｳﾑｼはﾖﾄｳﾑｼ・ｼﾛｲﾁﾓｼﾞﾖﾄｳで適用】 適当な長さの支柱に４本取り付け，圃場全体に配置し，取り付け位置は地上50～60cmとする。
ジュリボフロアブル	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ・ﾁｱﾒﾄｷｻﾑ	28・4A	◎	◎		◎		◎		◎		◎		
スタークル液剤10	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ	4A	無											無：無人航空機による散布で登録
スピノエース顆粒水和剤	ｽﾋﾟﾉｻﾄﾞ	5		◎		◎								
ゼンターリ顆粒水和剤	BT	11A		野	野	野		野	野					野：【野菜類登録】
ダイアジノン粒剤5	ﾀﾞｲｱｼﾞﾉﾝ	1B									◎			
ダントツ水溶剤	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝ	4A	◎	◎		◎								
ダントツ粒剤	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝ	4A	◎	◎		◎				◎		◎		
チューンアップ顆粒水和剤	BT	11A		野	野	野			野	野				野：【野菜類登録】
ディアナSC	ｽﾋﾟﾈﾄﾗﾑ	5		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	
トアロー水和剤CT	BT	11A		野		野			野					野：【野菜類登録】
トランスフォームフロアブル	ｽﾙﾎｷｻﾌﾛﾙ	4C	◎											
トルネードエースDF	ｲﾝﾄﾞｷｻｶﾙﾌﾞ	22A		◎		◎		◎						
トレボン乳剤	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ	3A		◎										
トレボンEW	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ	3A		◎										
トレボンエアー	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ	3A		無										無：無人航空機による散布で登録
ネキリエースK	ｲｿｷｻﾁｵﾝ	1B									◎			
ノーモルト乳剤	ﾃﾌﾙﾍﾞﾝｽﾞﾛﾝ	15				◎								
パダンSG水溶剤	ｶﾙﾀｯﾌﾟ	14				◎								
ハチハチ乳剤	ﾄﾙﾌｪﾝﾋﾟﾗﾄﾞ	21A	◎	◎		◎								

農薬名	成分名	IRACコード	適用病害虫名											注意事項
			アブラムシ類	アオムシ	オオタバコガ	コナガ	ウワバ類	ハスモンヨトウ	ヨトウムシ	ハイマダラノメイガ	ネキリムシ類	ネギアザミウマ	アザミウマ類	
ファインセーブフロアブル	ﾌﾛﾒﾄｷﾝ	34		◎		◎							◎	
ファルコンフロアブル	ﾒﾄｷｼﾌｪﾉｼﾞﾄﾞ	18						◎	◎					
フェニックス顆粒水和剤	ﾌﾙﾍﾞﾝｼﾞｱﾐﾄﾞ	28				◎		◎	◎	◎				
						無		無	無					無：無人航空機による散布で登録
プリロッソ粒剤	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	28	◎	◎		◎							◎	
プリンス粒剤	ﾌｨﾌﾟﾛﾆﾙ	2B								◎				
プレオフロアブル	ﾋﾟﾘﾀﾞﾘﾙ	UN				◎		◎						
プレバソンフロアブル５	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	28		◎		◎		◎		◎				
プレバソン粒剤	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	28		◎		◎				◎				
ブロフレアＳＣ	ﾌﾞﾛﾌﾗﾆﾘﾄﾞ	30		は	は	は	は	は	は	は				は：【はなやさい類登録】
ベストガード水溶剤	ﾆﾃﾝﾋﾟﾗﾑ	4A	◎										◎	
ベストガード粒剤	ﾆﾃﾝﾋﾟﾗﾑ	4A	◎										◎	
ベネビアＯＤ	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	28	◎	◎		◎		◎					◎	１．ｽﾄﾛﾋﾞﾙﾘﾝ系薬剤を含む農薬および銅剤との混用はしない。２．展着剤は加用しない。
ベリマークＳＣ	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	28	◎	◎		◎		◎		◎			◎	
マッチ乳剤	ﾙﾌｪﾇﾛﾝ	15						◎						
マトリックフロアブル	ｸﾛﾏﾌｪﾉｼﾞﾄﾞ	18							◎					
マラソン粉剤３	ﾏﾗｿﾝ	1B	◎										◎	
マラソン乳剤	ﾏﾗｿﾝ	1B	◎	◎									◎	
ミネクトデュオ粒剤	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ･ﾁｱﾒﾄｷｻﾑ	28･4A	◎	◎		◎				◎			◎	
モスピラン顆粒水溶剤	ｱｾﾀﾐﾌﾟﾘﾄﾞ	4A	◎	◎		◎							◎	
モスピラン粒剤	ｱｾﾀﾐﾌﾟﾘﾄﾞ	4A	◎	◎		◎				◎				
モベントフロアブル	ｽﾋﾟﾛﾃﾄﾗﾏﾄ	23	◎	◎		◎							◎	
ランネート４５ＤＦ	ﾒｿﾐﾙ	1A	◎						◎					
リーフガード顆粒水和剤	ﾁｵｼｸﾗﾑ	14	◎			◎								

（16）ブロッコリー
ウ　土壌消毒剤

農薬名	成分名	RACコード I:殺虫 F:殺菌	適用病害虫名											注意事項
			ケラ	ネキリムシ類	ハリガネムシ類	センチュウ類	萎黄病	根こぶ病						
ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤	ﾀﾞｿﾞﾒｯﾄ	I:8F						◎						
キルパー	ｶｰﾊﾞﾑﾅﾄﾘｳﾑ塩	I:8F				ネ		◎						ネ：【ネコブセンチュウ登録】

（16）ブロッコリー
エ　残渣処理剤

農　　薬　　名	成　　分　　名	ＩＲＡＣ コ　ー　ド	使用目的	注　意　事　項
キルパー	ｶｰﾊﾞﾑﾅﾄﾘｳﾑ塩	8F	前作のいちごのﾈｸﾞｻﾚｾﾝﾁｭｳ蔓延防止	使用目的以外での使用不可
			前作のきゅうりのｺﾅｼﾞﾗﾐ類蔓延防止	
			前作のきゅうりのつる枯病蔓延防止	
			前作のきゅうりのﾎﾓﾌﾟｼｽ根腐病蔓延防止	
			前作のきゅうりの褐斑病の蔓延防止	
			前作のﾄﾏﾄ、ﾐﾆﾄﾏﾄ、ﾋﾟｰﾏﾝ、とうがらし類又はきゅうりのﾈｺﾌﾞｾﾝﾁｭｳ蔓延防止	
			前作のﾄﾏﾄのﾊｸｻｲﾀﾞﾆ蔓延防止	
			前作のﾄﾏﾄ又はﾐﾆﾄﾏﾄのｺﾅｼﾞﾗﾐ類蔓延防止	
			前作のﾄﾙｺｷﾞｷｮｳの斑点病蔓延防止	
			前作のなすのﾌｻﾞﾘｳﾑ立枯病の蔓延防止	
			前作のにんにくのｲﾓｸﾞｻﾚｾﾝﾁｭｳ蔓延防止	
			前作のねぎの作物残渣に寄生したｸﾛﾊﾞﾈｷﾉｺﾊﾞｴ類蔓延防止	
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物のｱｻﾞﾐｳﾏ類蔓延防止	
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死	

オ 病害虫防除法（ブロッコリー）

（ア）花蕾腐敗病　*Erwinia carotovora* subsp. *carotovora*，*Pseudomonas fluorescens*，*P. viridiflava*

（防除のねらい）

土壌中の病原細菌が雨水の飛沫により跳ね上がり，地上部に付着して花蕾を腐敗させる。温暖多雨の年に発生が多い。

（耕種的防除法）

（１）発生しにくい品種を用いる。
（２）カルシウム資材を施用する。こまめに追肥を行う。

（イ）黒腐病　*Xanthomonas campestris* pv. *campestris*

（防除のねらい）

主に葉に発生するが，花蕾部にも発生し侵された部分は黒変して商品価値を低下させる。種子伝染，土壌伝染し，病原菌は葉縁の水孔部，傷口や害虫の食痕などから侵入する。キャベツ，ダイコンなどアブラナ科作物に広く発生するため，周辺に発病がある場合や発病した後作には注意する。

（耕種的防除法）

（１）アブラナ科作物の連作を避け，被害茎葉の処分など，ほ場衛生に留意する。
（２）健全な種子を使用し，土壌消毒の徹底および消毒後の菌の持ち込みに注意する。
（３）育苗中や本ぽ初期の風水害対策を適切に行う。
（４）ほ場の排水対策を徹底する。

（ウ）黒斑細菌病　*Pseudomonas syringae* pv. *maculicola*

（防除のねらい）

葉，茎，花に発生する。種子伝染，土壌伝染し，多くのアブラナ科作物に発生する。土壌消毒および種子消毒により，病原菌の汚染のない健全な環境を整え，病原菌の持ち込みの無いよう留意する。

（耕種的防除法）

ハクサイの項参照。

（エ）苗立枯病　*Rhizoctonia solani*

（防除のねらい）

高温時ほど発生が多く，土壌中の菌によって立枯れが起こる。育苗時には健全な床土を使用することと適正な水分管理が重要である。

（耕種的防除法）

（１）病原菌は土壌中に残るので連作を避ける。
（２）発病のおそれがある床土は使用しない。
（３）排水に努める。
（４）発病株は直ちに取り除く。

（オ）軟腐病　*Erwinia carotovora* subsp. *carotovora*

（防除のねらい）

花蕾部に発生しやすく，発病したものは商品にならない。収穫後に発病する場合もある。傷口や黒腐病，害虫の食害や寒害などを受けたところに発生しやすい。多犯性で土壌伝染する。高温時ほど発生が多い。薬剤防除は予防防除に努める。

（耕種的防除法）

ハクサイの項参照。

（カ）べと病　*Peronspora parasitica*

（防除のねらい）
（耕種的防除法）
ハクサイの項参照

（キ）根こぶ病　*Plasmodiophora brasicae*

（防除のねらい）
（耕種的防除法）　┤ ハクサイの項参照

（ク）菌核病　*Sclerotinia sclerotiorum*

（防除のねらい）

春と秋に発生し，特に，気温が20℃前後で降雨が続く場合は多湿条件となり発生しやすい。土中の菌核が第１次伝染源となるので，ほ場内に菌核を増やさないことが大切である。また，好気性菌であり，空気の多い土壌の表層でしか生存しない。

（耕種的防除法）

（１）発病株は早めに取り除き，収穫後に残った茎葉も取り除く。
（２）ほ場の排水を良好にする。
（３）発生地でのアブラナ科植物の連作は避ける。
（４）水田裏作を利用すると夏季の湛水期間中に土中の菌核は死滅する。

（ケ）ネギアザミウマ

（防除のねらい）

キャベツの項参照。

（コ）アブラムシ類

（防除のねらい）

ダイコンアブラムシ，ニセダイコンアブラムシ，モモアカアブラムシが加害する。主に葉裏に寄生するため，薬剤散布ではムラのないように散布する。冬季でも発生が続くため，気温が高めに経過したときの発生に注意する。

（耕種的防除法）

育苗期間中や生育期間中に不織布，寒冷紗などで株全体を被覆することにより被害を防止できる。また，同時にコナガやアオムシの発生も防ぐことができる。

（サ）コナガ

（防除のねらい）
（耕種的防除法）　┤ キャベツの項参照

（シ）ハイマダラノメイガ（シンクイムシ）

（防除のねらい）

薬剤散布は発芽期から生育初期に行い，苗床防除に重点を置く。また，夏季が高温少雨で残暑の厳しい年には多発するので注意する。

（ス）ネキリムシ類

（防除のねらい）
（耕種的防除法）　┤ ハクサイの項参照

（セ）ヨトウムシ（ヨトウガ）

（防除のねらい）

キャベツの項参照。

（ソ）ハスモンヨトウ

（防除のねらい）

ハクサイの項参照。

（タ）アオムシ（モンシロチョウ）

（防除のねらい）

キャベツの項参照。